

デイリー・ジーザス・ニュース #267

受難週の火曜日…試練と教えの日 イエスの弟子たちへの個人的な教え：「オリーブ山の説教」

第1部：講演の舞台と主要な指示 MT 24. 1-5（並行テキスト：M 13. 1-5、LK 21. 5-8）

1 イエスが神殿を出て歩いて行かれると、弟子たちが近寄ってきて、神殿の建物に目を留めさせようとしてしました。弟子たちの何人かは、神殿が美しい石や神に捧げられた供え物で常に飾られていることについて話合っていました。弟子の一人がイエスに言いました。

「先生、ご覧ください！なんと大きな石でしょう！なんと壮大な建物でしょう！」

2 MT 「あなたはこれらの^Mの大きな建物をすべて見ますか？」と彼は尋ねました。L 「あなたがここで見ているものについては、^{MT}本当ですよ^Lいつかその時が来る^{MT}ここにある石の一つも他の石の上に残らず、すべて倒されるでしょう。」

3 イエスがオリーブ山で神殿の向かいに座っておられたとき、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが^{ひそかに}イエスのもとにやって来ました。

「教えてください」と彼らは言った。「いつそんなことが起こるのですか。また、あなたの再臨と世の終わりの兆候は何ですか。」

4 イエスは答えて言われた。「だれにも欺かれないように気をつけなさい。」

5 「多くの者が私の名を名乗り、『私はキリストだ』と言い、^L「時は近づいている」^{MT}は多くの人を騙すでしょう。^L「私はあなたに命じる、彼らの後を追ってはならない。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マルコ = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレム郊外のオリーブ山
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	C. 火曜日：テストと指導の日
	イエスの弟子たちへの個人的な教え：「オリーブ山の説教」
タイトル	第1部：講演の舞台と主要な指示

コメント：

デイリー・ジーザス・ニュース #267

受難週の火曜日を挟んで、これまで16の朗読箇所を考察してきました。これらの朗読は、ユダヤ人指導者たちがイエスを試し、挑発したこと、そしてイエスが彼らに対してどのように反応したかを描いています。午後になると、焦点は劇的に変化しました。

イエスは伝道と公の説教の使命を終えました。これからは、弟子たちを父のもとへ旅立たせ、帰還させることに全力を注ごうとされました。火曜日の午後から木曜日の夜半頃の逮捕まで、イエスの最後の数時間の物語は、二つの重要な教えによって支配されます。それは「オリーブ山の説教」(マタイ24-25章)と「告別説教」(ヨハネ13-17章)です。今日の朗読は、「オリーブ山の説教」を構成する九つの箇所の最初の箇所です。イエスはこの教えを火曜日の午後、オリーブ山に座り、神殿の境内を見渡しながら語りました。

今日の朗読は、この重要な教えの背景を示し、イエスがそれに関して示した最も重要で鍵となる戒めを述べています。この教えが重要なのは、イエスが将来地上に最終的に再臨されること、そしてその再臨に伴う様々な状況を預言していたからです。イエスの鍵となる戒めは、この教えに照らして私たちがどのように生きるかを導くべきものです。

設定

エルサレムと国の将来に対する悲しみを吐露した後、イエスは地上での生涯で最後に神殿の敷地から出て行かれた。弟子たちは幾度となく神殿を目にし、体験してきたが、去る際には畏敬の念と誇りに満たされていた。しかし、それは外面的な、薄れゆく栄光に過ぎなかった。

イエスは人々の心の硬さ、そして必ず訪れる滅びの真実を悟られました。イエスは単なる石や儀式に心を動かされませんでした。1節から3節のギリシャ語の文法は、イエスと弟子たちの視点の違いを強調しています。

弟子たちは、石が積み重ねられていく様子を、完了形を用いて描写しました。この神殿は、ユダヤの歴史上この地に建てられた3番目の神殿であり、ほぼ50年にわたって建設が続けられていました。この地域で最も素晴らしい建築群であり、世界七不思議の一つに数えられています。弟子たちは完了形を用いることで、この建物の永続性と安定性を強調していました。彼らは、この神殿が時代を超えて存在し続けると信じていたのです。

一方、イエスは再び「強調否定」という文法を用いて、**「一つの石も他の石の上に残ることはない」という真理を強調しました。**破壊は完全なものとなるでしょう。神の裁きの前に耐えられるものは何もなく、神殿は確実に破壊されるでしょう。

イエスの預言は、全く驚くべきものでした。弟子たちはただ信じられない思いしか残されませんでした。しかし同時に、主の言葉は決して間違っていないものでした。主の言葉を無視することはできませんでした。しばらくしてその言葉が理解できた後、イエスの最も親しい友人4人、つまりイエスが同時に召し、文字通り最初の弟子となった4人が、さらに詳しく知るためにひそかにイエスのもとを訪れました。神殿はいつ破壊されるのでしょうか？イエスの最後の到来の兆候は何でしょうか？

デイリー・ジーザス・ニュース #267

イエスのこの預言的な説教を解釈するのは少し難しいです。なぜなら、主は2つの関連する質問に答えておられたからです。

- (1) 神殿はいつ破壊されるのでしょうか？
- (2) イエスが最後に再臨されるのはいつですか？

四人の弟子たちがこの二つの疑問を抱いたのは、神殿の破壊が万物の終わり、すなわち世の終わりを意味すると思ったからです。彼らはイエスを、ダビデ王のような軍事的メシアと見なしていました。ダビデが剣の力によってイスラエルの領土を拡大したように、エルサレムが破壊された後、イエスは再びエルサレムに戻り、神の敵を打ち破り、自らの統治を確立するだろうと。

受難週の火曜日の午後、弟子たちがこれらの質問をしたとき、イエスが死に、復活し、天に昇り、エルサレムの滅亡からずっと後の世の終わりに地上に戻ってくるとは、全く知りませんでした。西暦70年のエルサレムの滅亡からイエスの最後の到来までには、数千年の歴史があります。

イエスは説教の中でこの二つの疑問に答えておられたため、今後の「デイリー・ジーザス・ニュース」では、神殿の破壊とイエスの再臨について、それぞれ別のセクションに分けてお伝えします。これらは全く異なる出来事です。イエスはそれをご存じでしたが、弟子たちは知りませんでした。

応用：

イエスの重要な戒めは、私たち皆が従わなければならない実践です。 **「わたしは命じる。人に惑わされないように、常に気をつけなさい。」**

イエスの最後の到来に関する真理は、次の二つの方法で私たち自身を守るための勤勉さを呼び起こすことを目的としています。

- (1) 帰国に備えること、そして
- (2) 彼の到来に伴う多くの欺瞞を避けるため

残念ながら、イエスはこの戒めが弟子たちにとって不可欠であることを知っていました。なぜなら、この戒めほど私たちを主から逸らすものはないからです。イエスの再臨に対する正しい態度に関する欺瞞と誘惑は、教会において膨大な時間、エネルギー、そして資源の損失をもたらし、 **「すべての国の人々を弟子とする」という私たちの主要な使命を果たすことから私たちを逸らしてぎめました。** イエスの戒めは、この教えに従うという私たちの最大の必要を問うものでした。

「目を覚ましていなさい」と命じられたとおりに、ご自身で実行してください。

これらの読書の中のあらゆる情報と命令に注意深く耳を傾けてください。それらはすべて、主の再臨に備え、それに関する欺瞞を避けるために **「注意深く注意を払い続ける」という中心的な命令を強化するものです。**